

第6学年 図画工作科学習指導案

1 題材名 「積んで積んでくっつけて——木の実や木の枝を使って——」（造形遊び）

2 題材について

本題材は、自然材である木の実や木の枝がもつ特徴を生かしながら、高く積んだり、組み合わせたりして立体的に表現することをねらいとしている。子どもたちは自分の感覚や活動を通して、木の実や木の枝がもつ形や色の面白さや、がさがさ感、つるつる感、ちくちく感などの表面の材質感の違いをとらえることができる。また、高く積み上げたり、組み合わせたりすることによって、それらの量感や奥行きを感じ、造形的な動き、空間やバランスなどを感じ取ることができる。本題材では、木の実や木の枝を積むという限られた条件の中で、不規則な形のものの積み方や組み合わせ方を考えたり、それらの接着・接合方法を考えたりして試行錯誤しながら、立体空間を豊かに発想し、構成していく力を育成していきたい。

3 本題材の目標

- 木の実や木の枝の特徴を感じながら、積んだり、組み合わせたりして進んで表そうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 木の実や木の枝のいろいろな積み方、組み合わせ方に気付いている。
(発想や構想の能力)
- 木の実や木の枝の特徴を生かしながら、自分の思いに合うように、積んだり、組み合わせたり、接着・接合方法を考えたりして立体的に表すことができる。
(創造的な技能)
- 作品から感じたイメージを交流し、自分や友だちの表現の違いやよさに気付いている。
(鑑賞の能力)

4 題材計画(5時間)

時	1(1/5時 ○組)	3(2/5時 ○組)	1(5/5時 ○組)
ねらい	○公園で集めた松ぼっくりを積んだり、組み合わせたりして表現する。	集めてきたいろいろな木の実や木の枝などの自然材の特徴を生かして、積んだり、組み合わせたり、また接着・接合方法を考えながら立体的に表現することができるようにする。	作品から感じたイメージを根拠をはっきりさせながら話し合い、自分や友だちの表現の違いやよさに気付いている。
活動	であい	表現	鑑賞
学習活動の内容	1 ○公園で集めてきた松ぼっくりをかみ合わせて、積んだり、組み合わせたりする。 (1) 一学期の板状粘土の学習を想起する。 (2) 松ぼっくりを積んだり組み合わせたりする方法を考えながら表現する。 (3) 積んだり、組み合わせたりする方法と接着・接合の方法を話し合う。 (4) 材料集めと次時の表現の見通しをもつ。	2 集めてきたいろいろな木の実や木の枝の形や表面の材質感を生かしながら、積んだり、組み合わせたりして立体的に表現する。 (1) 木の実や木の枝の積み方・組み合わせ方を工夫しながら立体的に表現する。 (2) それぞれの材料に合った接着・接合方法を考えながら立体的に表現する。	3 作品から感じたイメージを材料の形や表面の材質感、動きや奥行きなどの造形的な特徴から交流し、自分や友だちの表現の違いやよさをみつけることができる。 (1) 鑑賞カードを貼りながら、友だちの作品を鑑賞する。 (2) いくつかの友だちの作品をもとに全体鑑賞する。 (3) 作品から感じたイメージを、根拠を明確にして語り合いながら個別鑑賞する。
	共通事項 ア	共通事項 ア	共通事項 ア イ

第6学年〇組 図画工作科学習指導案(であいの活動)

指導者 ○○ ○○ 6年〇組教室

5 本時目標 (1 / 5)

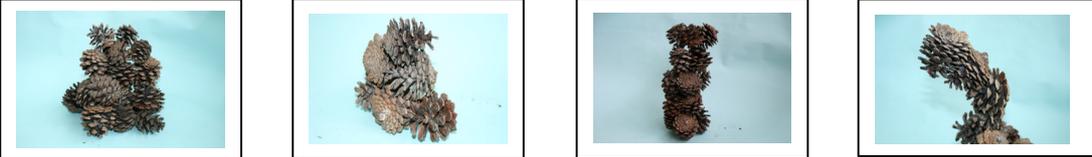
○ 木の実や木の枝のいろいろな積み方, 組み合わせ方に気付いている。(発想や構想の能力)

6 本時学習のポイント

板状粘土を立てた技を想起させることで, 可塑性のある粘土と, 可塑性が無く, 大きさや形状も様々である松ぼっくりを比較しながら, 松ぼっくりを高く積んだり, 組み合わせたりする方法を思考できるようにします。

接着・接合では参考になるような作品を提示するなどして自然材を生かした接着・接合の仕方を判断できるようにします。

7 展開

学習活動	支援	子どもの姿
1 板状粘土の学習を振り返り, 本時学習のめあてをつかむ。	☆ 板状粘土を立てるために使った技を想起させる。 ☆ 高くなる技とそうでない技に分けて板書する。	△○ 板状粘土の学習を想起し, 本時学習との共通点と相違点を考え, 理解している。
めあて 松ぼっくりをどんどん積んだり組み合わせたりしてみよう。		
2 松ぼっくりを積んだり組み合わせたりする方法を考えながら表現する。 ・ かみ合わせる ・ 積む ・ 土台を大きくする ・ 固まりを作って合体する	☆ ○公園で拾った松ぼっくりが入っているコンテナをグループに置いておく。 ☆ 机間指導しながら工夫しているところを賞賛したり, つまづきに応じて助言したりする。 ☆ 接着・接合用に木工用ボンド, ワイヤー, 麻紐, ホットボンドを用意しておき, 必要に応じて提供する。 ☆ 自然の物を生かした接着・接合の仕方ができるよう助言する。	◎○ 板状粘土の学習を元に, 松ぼっくりの積み方や組み合わせ方を工夫している。 ◎○ 自分なりに工夫し, 接着・接合をしている。 ◎○ 積み方や組み合わせ方に応じた接着・接合をしている。
3 積んだり, 組み合わせたりする方法と接着・接合の方法を話し合う。	☆ つくったものを提示しながらどのように積んだり組み合わせたりしたかを発表させる。	△ 板状粘土の技とつないで発表をしている。 △○ 自分の技と友達の技を比較しながら聞いている。
		
4 活動を振り返る。	☆ 今日のめあてにそって自分の表わしたことや工夫したことを振り返らせる。 ☆ お互いの表現のよさを交流しながらさらに自分の思いを表現するためにどんな木の実があったらいいかを考え, 次時への意欲を持つことができるようにする。	◎ 今日のめあてにそって自分の活動を振り返ることができる。 △ 自分の作品をよりよく表現するために本時の活動を振り返り, 次時の学習への見通しを持っている。

○造形の姿 ◎思考判断している姿 △学習の構え

第6学年〇組 図画工作科学学習指導案(表現の活動)

指導者 〇〇 〇〇 6年〇組教室

5 本時の目標 (2 / 5)

- 木の実や木の枝などの自然材の特徴を生かして、積んだり、組み合わせたり、またその材料に合わせた接着・接合方法を考えながら立体的に表現する。(創造的な技能)

6 本時学習のポイント

材料は、前時の松ぼっくりに加え、木の実や木の枝など限定した自然材を使います。そのことによって、それぞれの材料の形や質感などに着目し、その材料の特徴に合った接着・接合方法を考えます。積んだり組み合わせたりして偶然から生まれる形の不思議さ、おもしろさを味わいながら立体的に表現できるようにします。

7 展開

学習活動	支援	子どもの姿
<p>1. 前時までの学習を想起し、本時の学習のめあてを確認する。</p> <p> 松ぼっくりだけでなく、他の木の実や木の枝など、いろいろな材料を使ってやってみよう。</p> <p>めあて 松ぼっくりなどの木の実や木の枝の特徴を生かして、積んだり、組み合わせたりしよう。</p>	<p>☆ 松ぼっくりを積んだり、組み合わせたりしたことや接着・接合方法を、図工ノートを見たり話したりすることで想起させる。</p>	<p>△ 学習の見通しをもっている。</p> <p> 松ぼっくり以外の材料も使ってみたいな。</p>
<p>2. 木の実や木の枝の積み方・組み合わせ方を工夫しながら立体的に表現する。</p> <p>☆ 接着・接合方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤー ・輪ゴム ・木工用ボンド ・ホットボンド ・麻ひも 	<p>☆ 木の実や木の枝などの自然材を準備する。</p> <p>☆ 接着・接合用の木工用ボンド、ワイヤーなど必要な道具を準備する。</p> <p>☆ 輪ゴムやワイヤーを使って、材料を固定することを伝え、ペンチなどの用具の安全な取り扱い方について指導する。</p> <p>☆ 机間指導しながら、工夫しているところを賞賛したり、つまづきに応じて助言したりする。</p> <p>☆ 積み方や組み合わせ方で工夫している作品を賞賛したり、その方法を発表させたりする。</p>	<p>△ 必要な用具・材料の準備ができています。</p> <p>○ 木の実や木の枝などから必要な材料を選んで、進んで造形活動をしている。</p> <p>◎ ① 自分の気に入った材料を選び、積んだり、組み合わせたりしている。</p> <p>○ ② 木の実や木の枝などの形や表面の材質感の面白さを感じ取りながら、表現している。</p> <p>◎ ③ 材料に合わせた接着・接合方法を考えながら立体的に表現している。</p> <p>△ ホットボンドやペンチなどの用具を安全に使用している。</p>
<p>3. 自分や友だちの表現のよさに気付くために活動を振り返る。</p>	<p>☆ 今日のめあてにそって、自分が表したことや工夫したことなどを振り返るようにさせる。</p> <p> 特徴のちがう材料を使うと面白い作品ができるね。</p>	<p>◎ 今日のめあてにそって自分の活動を振り返ることができる。</p> <p>◎ 友だちのよさ、自分のよさに気付いている。</p> <p>△ 次時の学習の見通しをもっている。</p>

第6学年〇組 図画工作科学習指導案(鑑賞の活動)

指導者 〇〇 〇〇 6年〇組教室

5 本時目標 (5/5)

- 作品から感じたイメージを根拠をはっきりさせながら交流し、自分や友だちの表現の違いやよさに気付いている。(鑑賞の能力)

6 本時学習のポイント

作品から感じたイメージを、根拠をはっきりさせながら交流させます。そのために、鑑賞する視点を明確にしたり、感じたイメージの根拠を鑑賞カードに書いたりするようにします。鑑賞するときの視点としては、材料の形や表面の材質感、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえることを大切にします。また、これらのことを全体鑑賞で共通理解することによって、個別鑑賞をより充実したものにしていきます。

7 展開

学習活動	支援	子どもの姿
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時学習のめあてを確認する。</p>	<p>☆ 作品を鑑賞しやすいように展示しておく。(題名もつけておく)</p>	<p>△ 学習の見通しをもっている。</p>
<p>めあて 作品から感じたイメージを、<u>材料の形や表面の材質感</u>、<u>立体の動きや奥行き</u>などの特徴から説明し、自分や友だちの表現の違いやよさを見つけよう。</p>		
<p>2 鑑賞カードを貼りながら、友だちの作品を鑑賞する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>松かさのガサガサ感の中に、くぬぎのツルツルが光っていてきれいだね!</p> <p>松かさが、らせん状にくっついているから、動きがあつていいね!</p> <p>木の実がグループでくっついているのがおもしろい!</p> </div>	<p>☆ 鑑賞カードを区別して貼るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水色：作品から感じたイメージを材料の形や表面の材質感などの造形的な特徴から具体的に書かせる。 ・桃色：作品から感じたイメージを立体の動きや奥行きなどの造形的な特徴から具体的に書かせる。 ・緑色：その他の特徴から感じたイメージ <p>☆ 鑑賞カードが貼られない作品がないように配慮する。</p> <p>☆ カードが多く集まった作品、形のおもしろい作品の中から、2・3点を選び全体鑑賞させる。</p> <p>☆ 発言の仕方は、作品から感じたイメージを、材料の形や表面の材質感、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえながら説明させるようにする。</p> <p>☆ 多様な見方や感じ方で作品について交流することを大事にする。</p> <p>☆ 自然発生的なグループで、作品から感じたイメージを根拠を明確にしながら交流するようにする。</p> <p>☆ 鑑賞活動を通して気付いた自分や友だちの表現の違いやよさに触れさせる。</p>	<p>△◎ 前時までの活動を振り返りながら、いろいろな作品のよさに触れている。</p> <p>◎ 形や表面の材質感、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえながら鑑賞し、鑑賞カードを貼っている。</p> <p>△◎ 自分の感じたことや考えたことについて根拠(鑑賞カード)を明確にして交流している。</p> <p>△◎ 自分や友だちの表現の違いやよさに気付き交流している。</p> <p>◎ 自然発生的なグループで作品から感じたイメージを、根拠を明確にしながら交流している。</p> <p>◎ 自分や友だちの表現の違いやよさに気付き交流している。</p>
<p>3 いくつかの友だちの作品をもとに全体鑑賞する。</p>		
<p>4 自分の感じたことや考えたことについて根拠を明確にしなが個別鑑賞する。</p>		
<p>5 全体鑑賞・個別鑑賞を通して気付いた自分や友だちの表現の違いやよさを書き、交流する。</p>		

○ 造形活動の姿 ◎思考判断している姿 △学習の構え